

Link

KOMAZAWA
UNIVERSITY

Vol.6
2016.5



繋がる力が未来を拓く

KOMAZAWA *Spirits*

「人との繋がりこそ財産
スポーツによる人づくりの魅力を熱く伝えたい」

中畑 清

「開放特許を活かした学生たちのアイデアが
新たなビジネスに繋がる」

経済学部 ITプロフェッショナルクラス

「仲間との切磋琢磨で世界に挑む」

陸上競技部 西山 雄介・中谷 圭佑・工藤 有生



[Special Talk] 卒業生対談

「スポーツの力」を伝える、広める

田井 弘幸 & M 高史

共同通信社 運動部記者

ものまねアスリート芸人

[名誉教授に聞く]

池田 魯参

 名誉教授

C O N T E N T S

- 2 [特集]
繋がる力が未来を拓く
KOMAZAWA *Spirits*
- 3 「人との繋がりこそ財産
スポーツによる人づくりの魅力を熱く伝えたい」
中畑 清
- 6 「開放特許を活かした学生たちのアイデアが
新たなビジネスに繋がる」
経済学部 ITプロフェッショナルクラス
- 8 「仲間との切磋琢磨で世界に挑む」
陸上競技部 西山 雄介・中谷 圭佑・工藤 有生
- 10 **GLOBAL KOMAZAWA**
キャンパスにいなながらグローバル人材を育成する
駒澤大学のプログラムを紹介
- 12 [名誉教授に聞く]
『正法眼蔵』の真髄に迫ろうと選んだ天台教学
池田 魯参 名誉教授
- 13 [Special Talk] 卒業生対談
「スポーツの力」を伝える、広める
田井 弘幸&M高史
共同通信社 運動部記者 ものまねアスリート芸人
- 16 [研究レポート]
グローバル・メディア・スタディーズ学部
西岡 洋子 教授
「メディア制度の形成と変容を
社会や文化も含めた歴史的な文脈で読み解く」
経営学部
中野 香織 准教授
「複数のメディアによる広告は消費者行動や
ブランドイメージにどんな影響を与えるか？」
- 18 **駒大NEWS**
2015～2016
- 20 **駒澤大学の就職力**
求人企業は1万3762社、求人倍率4倍以上！
2015年度卒業生就職データ
- 22 **駒澤大学のビジョン**
- 23 **学長メッセージ・沿革**

制作・発行 駒澤大学 総務部 広報課



人との繋がりこそ財産
スポーツによる人づくりの魅力を熱く伝えたい

中畑 清

Kiyoshi Nakahata

繋がる力が
未来を拓く

K O M A Z A W A

1882年開校以来、
仏教の教えと禅の精神を礎に歩んできた駒澤大学。
キャンパスで新たな仲間や師と出会い、
学びを深め、社会へと巣立つ。
駒澤大学で培った「繋がる力」が未来を切り拓いていく。

昨シーズンまでプロ野球・横浜 DeNA
ベイスターズの監督を務めていた中畑清
は、今春スタートした2つの新番組にレ
ギュラー出演し、さまざまなスポーツのア
スリートたちに熱烈メッセージを送って
いる。人との繋がりを大切に、人間として
成長はスポーツにも欠かせないと説く
中畑氏、まず「絶対調！」(文中、敬称略)

4月からスタートの新番組で
「スポーツは人を育てる。」
ということを伝えたい

4月8日から始まったBS11(日本BS
放送)の「中畑清 熱血!スポーツ応援団」
中畑の名前を冠し、毎週金曜夜8時からの
1時間番組だ。MCを務めるのはもちろん
中畑(アシスタントはCMで豪快なハットス
イングを披露して「神スイング」と話題になっ
たタレントの稲村亜美)。

この番組は、メジャーな競技はもちろん、マ
イナースポーツも幅広くピックアップしてア
スリートたちの頑張りを応援する。第1回は
「がんばれ!日本柔道」。井上康生・柔道全
日本男子監督をスタジオに招き、リオ五輪へ
の展望を語り合った。

また、サブコーナーでは今注目の女子ラグ
ビー・サクラセファーズの最年少ラグビーガ
ールで、今年3月まで高校生だった清水麻有選手を
取り上げた。

2日からスタートしたテレビ東京系の新
番組「追跡LIVE! SPORTS ウォ
チャー」では、中畑は土曜夜のコメントーター
として出演。MCはお笑いコンビ・ピースの
2人だ。

2つの番組で中畑が視聴者に伝えたいのは「スポーツは人を育てる」ということ。「野球に限らずスポーツとは人を育てるための基本とかルールやマナーを教えてくれるところ。人間教育の原点がスポーツにはある。それがどれだけ大事かを知らせたい」と語るのだ。

横浜DeNAベイスターズの監督就任早々に感じた「ショック」

「チームづくりは人づくり」。中畑がそのことを改めて痛感したのが、横浜DeNAの監督に就任したときだったという。「就任早々からものすごいショックを受けたよ。一体感のない、烏合の衆のようなチームだったね」

人間としての成長がなければチームの成長もないと強く感じる中畑は、選手一人ひとりに対して、当たり前のことをしっかりとでき、何をすべきか自分で判断できるようにすることの大切さを教え、気の緩んだプレー、自分のことしか考えずに途中でゲームを諦めてしまうようなプレーには厳しい叱責の声を放った。

「だめなことはだめだとハッキリ教えるのがどれほど大事かってことだよ。わがままを許しちゃいけない、怠慢なプレーを許しちゃいけないというのは、若い選手であろうとベテランであろうと全く関係ない。だめなものだめというのがオレの方針だと明確に伝え、チームに浸透させることが、監督として最初にやったことだったよ」

こうして中畑は、チームの土台づくりに本気で取り組んでいく。

「諦めない野球」が実って観客動員数は165%に増加

文字通り一から選手を鍛え直したことで、選手の成長はめざましく、その成長ぶりが手にとるようになる4年間の監督生活だったという。

「オレ流の教え方もあるから、それに対してどう選手が成長していくか、その過程を見るのが楽しかったね。若い選手に言い続けてきたのは、後ろを振り返るような、積極的なミスをしなさいということ。その結果、チームが前向きになり、明るくなっていたのがよくわかったよ」

横浜DeNAは親会社変更により2012年シーズンから現在のチーム名になったが、それ以前から下位に低迷し続け、人気も下降気味だった。チームの低迷打破のため監督に招聘されたのが中畑だった。

「弱いチームだからこそできることは何かといえは、最後まで諦めない気持ちを持つこと。でもこれがなかなかできそうではないものなんだよ。早めに勝負が決まれば試合を投げ出してしまおうベテラン選手もいる。それを見れば若手もそんなもんだと思うわけでしょ。オレはそういうことを絶対に許さない。たとえ10対0でも最後の最後まで諦めないで挑み続ける姿に、ファンはきつと気づいてくれる。おかげで横浜DeNAは今、一番ファンが球場に集まるチームになってきていますよ」

中畑監督最後の2015年のシーズンでは、日本一となった1998年以来17年ぶりに前半戦首位ターンとなるなど躍進ぶりを見せ、監督を務めた4年間の観客動員数を

は2011年との比較で165%と大幅に増加。球団の公式ファンクラブの会員数も4年間で約10倍となった。

人づくりの大切さを教えられた原点は母校駒大の太田野球

人づくりの大切さ、だめなものだめとハッキリ言う大切さ。中畑がそれを学んだ原点が駒澤大学時代にあり、「大学野球時代の恩人、太田誠監督に鍛えられた」と振り返る。

太田は1971年から35年間にわたり駒大野球部監督を務めた名将。太田の監督就任の翌年、駒澤大学に入学したのが中畑だった。1976年に卒業するまでの4年間、太田の指導をみっちり受けた。

「太田監督からは野球を通して人づくりの何たるかを教わった気がするね。太田監督は、名門校出身とか無名校出身とか関係なく、選手一人ひとりを見てくれる人だった。そこからスタートしてオレの人生が開いた。何ごともそうだけど、しっかりとした人間をつくるのが、チーム力をアップさせることに繋がる。そこに気づかずに、いくら強いチームをつくりたい、質のいい選手を育てたいと思ったところで、とてもできる話ではないよ」

プロに入ってからも、巨人時代の長嶋茂雄、王貞治、藤田元司の各監督から学んだことは多かったという。「ホントにオレ、いい指導者にめぐり合えたね。特に長嶋さんは、老若男女どんな相手でも、金持ちだろうとなかろうと誰に対しても変わらない対応をする人。人としてのやさしさがにじみ出ているね。病気になる前からメッセージを送り続け、自分が頑張る姿を見



せてたくさんの人を勇気づけている。太陽のような人だよ。だからオレにとって長嶋さんは憧れであり、夢であり、少しでも長嶋茂雄に近づきたいと思う。なんとか長嶋茂雄になりたいんだけど、どうしても長嶋さんのようなオンリーワンにはなれない。だから先輩たちに学びながらも中畑清というオンリーワンをめざしているんだよ」

中畑は、太田監督や長嶋、王、藤田監督の「いいところ取り」をしたから今の自分がある、とも言つ。

「目の前に生きた教科書、バイブルがあったから、迷わず進むことができた。いい人に恵ま

れたというのは、やっぱり人と

2人の縁が取り持った欽ちゃんの駒大入学

人との繋がりでいえば、コメディアンの秋本欽一が、昨年73歳にして駒澤大学を受験して合格。新1年生となり話題となったが、受験のきっかけは、中畑との縁が取り持ったものだった。

2人は以前から親交があり、秋本が社会人野球の茨城ゴールデンゴースを立ち上げたときに支援と応援をしたのが中畑だ。あるとき、駒澤大学の集まりに秋本をゲストとして招いたことがあった。

「大学の中を見たり歴史を聞いたりしたとき、すごく羨ましい気持ちが生まれたらいいんだね。この大学の雰囲気とてもいいから入学したいなって言うんだよ。社会人でも入れるからぜひ受けなさいよと勧めたら、ホントにトライしてきた。横浜の監督時代、球場に挨拶に来たから「よう後輩！」って言うてやったよ。欽ちゃんは今、学生生活を心からエンジョイしているんじゃないかな」

縁といえば、生まれ故郷の福島県矢吹町の絆も深いものがある。

「自分の田舎である矢吹町の存在なくして、オレのエネルギーは倍増しないだろうな。田舎の同級生も誇りに思ってくれているし、町の人々の笑顔のためにも頑張りたいと思っているんだ」

矢吹町で毎年開催されている「中畑清旗争奪ソフトボール大会」は昨年で32回を数



矢吹町でのソフトボール大会の様子

えた。昨年の大会は県内のスポーツ少年団96チーム、女子中学9チームの計105チームが参加し、7会場に分かれて熱戦を繰り広げた。今や福島県で最も規模の大きい少年少女ソフトボール大会となっている。

ほかにも中畑の名を冠する大会が茨城や宮崎、北海道など全国各地で開催されている。

「それもこれも野球界に対する恩返しであり、裾野を広げるため。オレが行って喜んでくれるのなら時間が許す限りどこへでも行きますよ。え？大変じゃないかって？とんでもない。オレの存在を認めてくれるんだから、うれしいよ！」

野球を愛し続ける男は、プロ根性に徹するがゆえにサービスピッチを決して忘れない。万人に愛される理由がそこにありそう。



先輩たちの“いいところ取り”をして、中畑清というオンリーワンをめざしているんだよ

中畑 清 (なかはた きよし)氏 プロフィール
1954年福島県西白河郡矢吹町生まれ。1976年駒澤大学経営学部卒業。大学時代は東都大学リーグ1973年秋季リーグ戦最高殊勲選手。ベストナイン4度。2度の全日本代表入り。1976年ドラフト3位で読売巨人軍に入団し、中心選手として活躍。7年連続でゴールデングラブ賞受賞。労働組合日本プロ野球選手会初代会長。1989年現役引退。1993年から94年まで長嶋茂雄監督のもとで巨人の打撃コーチ。2004年のアテネオリンピックでは日本代表監督を務め銅メダル獲得。2012年から15年まで横浜DeNAベイスターズ監督。2015年矢吹町から「名誉町民第1号」の称号を授与された。



2015年に横浜DeNAのチームスローガンとした「導」という言葉を、中畑は今も好んで色紙に書く。チームとファンが互いに導きあい、共に高みをめざすと同様、人と人も互いに導きあって結びつきを強くしていかなければならない、というメッセージだ



中畑清 熱血! スポーツ応援団 BS11
毎週金曜日 日よ8時00分~8時54分

「ちょっといいこの結婚式があつて、何かプレゼントしたいなと思ったときにひらめいたのが花でした。結婚式なら多少高価でも市場性はあるはず」

商品化にあたっては、実現性が大きなポイントになる。実際に花びらに印刷することができるのか、またニースはどれくらいあるのか、学生たちはフラワーショップや結婚式場、さらには中小企業が集まるセミナーに参加したりして、ニースや採算性を聞き取り調査した。

11月の地方予選を突破し、12月の全国大会では、各地区の予選を勝ち抜いた10チームが参加。駒澤大学のグループは入賞には至らなかったが、高い評価を得た。

フラワーショップで商品化をめざして動き出す

しかし、話では終わらなかつた。駒澤大学の学生たちのアイデアに注目したのが、東京都で中小企業の知的財産の相談や支援業務を行っている東京都知的財産総合センターだった。学生たちの柔軟なアイデアに、「これなら実際に商品化できる」と、東京・代官山でフラワーショップを経営する「Uca」(片山結花代表取締役)に、2015年春に商品化を持ちかけたのだ。

同社は生花だけでなく、プリザーブドフラワーを使ったアレンジ商品を開発し、花にメッセージを印刷したのも販売しており、人気を得ている。片山社長は語る。

「メッセージや写真を入れた花は2012年から『メッセージローズ』『フォトローズ』という名前で販売を始めています。お客さまの8割は男性で、プロポーズ用がほとんど。この



「知財活用アイデアプレゼン大会」の様子

きつかけをこう語る。

「フォトローズでビデオメッセージも楽しむことができれば、今まで以上にお客さまに喜んでいただくことができるはず。ぜひ私どもで扱いたまいます」とお返事しました」

ただし、実現にはまだクリアすべき課題があるという。たとえば、花びらは曲線になっているので技術的に印刷が難しく、葉脈と一緒にコードを読み取ってしまうなど、まだ読み込み成功率が80%程度だという。それでも、何とか2016年内を目標に販売を開始したい、と片山社長。

指導した中濱教授は「形としては全国大会での入賞をめざしましたが、本来は大会参加が目的ではなく、新しいビジネスをつくるための取り組みなので、商品化は願ってもない話。コードを読み取ってアクセスするサイトのデザインやコンテンツなどでも学生たちが参加できれば最高ですね」と、次なる展開を構想しながら「今後とも大学外の企業や団体とさまざまな形でコラボレーションする機会をつくり出し、学生たちの経験値を高め、可能性を引き出していきたい」と力強く語った。



左から、太田悠さん、鈴木亜美さん、片山結花社長(株式会社Uca)、中濱光昭教授

撮影協力:株式会社Uca <http://www.uca-design.com/>

経済学部 ITプロフェッショナルクラス

開放特許を活かした学生たちのアイデアが 新たなビジネスに繋がる

大手企業の未活用の開放特許を使って
学生たちが独創的な商品アイデアを提案。
それが中小企業の新製品になる——
産学連携で商品開発する、そんな話実現しつつある。
富士通の技術を用いて学生6人が考えたのは、
花にデータを埋め込み、動画や音声で
メッセージを伝えるという斬新なアイデアだった。

ITを使って新しい
ビジネスをデザインする

経済学部ITプロフェッショナルクラスの2014年度の授業の中で、指導に当たる中濱光昭教授が選んだテーマの一つが、ITを使って新しいビジネスをデザインすることだった。

大手企業には、特許をとったものの未活用のままとなっている特許がたくさんある。この開放特許を使って学生にアイデアを考へてもらい、中小企業のものづくりに繋げることを目的に開催される「知財活用アイデアプレゼン大会」に参加することにしたのだ。

2014年度の大会は、富士通が保有する開放特許を用いて全国の大学生がビジネスアイデアを競い合った。同クラスでも、2グループに分かれ、ユニークな商品をめざしてアイデアを出し合うことになった。



写真とコードが印刷されたバラに、スマートフォンをかざすと、音声やビデオメッセージが流れる「フォトローズ」を開発中

バラの花びらに写真を印刷
スマホで読み取り動画再生

富士通から提示された特許は、ロボットやマイク技術などさまざまな技術だったが、その中から「印刷画像へのコード埋め込み技術」を選んだのが、同クラス1期生で今春卒業してIT関連企業に就職した太田悠さんら6人のグループだった。太田さんは振り返る。

「この特許は、私たちの目には見えにくい色を使って印刷画像にコードを埋め込むことで、Webコンテンツに誘導できるというものです。各人が持ち寄ったアイデアをもとに、何が最も商品として魅力があるかを話し合いました。2、3カ月かけて議論した結果、決まったのが花びらに印刷してビデオメッセージを伝えるという企画でした」

「花に印刷しよう」と提案したのは経済学部4年(当時2年)の鈴木亜美さん。発想の

自由でユニークな発想に プレゼンを聞いて感動すら覚えました



公益財団法人
東京都中小企業振興公社
東京都知的財産総合センター
製品化コーディネーター
木村 勝己さん

特許技術を製品に活かすには柔軟なアイデアや発想が求められますが、長いこと同じ組織にいると常識や固定観念といった壁が大胆な発想を妨げます。そこに学生さんのアイデアが加わることは大きな意義があります。また組織に染まらない自由

な発想、ユニークな発想があるからです。最初に学生さんたちのプレゼンを聞いたとき、視点のユニークさに「面白い、イける」と思いました。私たちが考えていたのは紙媒体など平面に印刷する用途です。しかし、彼らのアイデアは立体に印刷する、さらに生花という生ものへの印刷で、プレゼンを聞いたときは感動すら覚えました。

すばらしいアイデアを商品化にまで持っていくには関係者の強い思いが必要で、具現化のため、微力ながら協力していきたくと思っています。

開放特許活用で地方創生に貢献 2016年度内にはビジネスを立ち上げたい



富士通株式会社
法務コンプライアンス
知的財産本部
ビジネス開発部長
吾妻 勝浩さん

開放特許を使ってビジネスのアイデアを出してもいい、中小企業での商品化をめざすというのは、地方創生の一つの形だと考えています。この仕組みを大いに活用して、地域経済を少しでもよくしていきたいと思っています。

当社の印刷画像へのコード埋め込み技術は、これまでにも京都清水寺の電子おみくじとして活用された例があります。また、近く青森県内の企業によって「南部せんべい」に応用したものが発売される予定ですが、今回の駒澤大学の提案はともユニークなアイデアであり、ぜひとも商品化に繋がりたいです。

技術的にはそれほど大きな問題はないので、出口戦略をさらにブラッシュアップし、2016年度内にはビジネスとして立ち上げたいと考えています。

が陸上選手で、1歳上の兄も、妹も長距離選手という。陸上家族の中で育った。「兄と妹は小学生から陸上をやっていたが、僕はサッカーに夢中で、中学校にサッカー部がなくて始めたのが陸上。走っているとすごく楽しくて、本格的に始めました」

全国高校駅伝には3年連続で出場し、大学に入ってから出雲、全日本、箱根の三大駅伝のすべてに出場。個人種目でも、高校生のときの国体少年Aで5000m2位(日本人1位)。大学に入ってから2015年の上尾シティハーフマラソンで2位。そして今年2月の千葉クロスカントリー選手権大会で優勝に輝き、世界大会への出場を決めた。

「大学に入ってから3年間、駅伝の区間記録でも個人種目でも2位が最高だったので、優勝できたのがうれしかったし、自信にもなりました。今年は結果を出す1年。世界での経験を生かし駅伝に繋げていきたい」

めざすはオリンピックの1万m出場

中谷は兵庫県の西脇工業高校出身。高校時代から高校駅伝や都道府県対抗駅伝で活躍。2012年のアジアジュニア陸上5000mで銅メダルを獲得している。

大学生になってからも三大駅伝のすべてに出場。8回の大会のうち1回だけ区間4位だったが、あとは区間1位か2位で、区間賞に4度輝いている。2015年の夏季ユニバーシアードでは5000mと1万mに出場。1万mで銅メダルを獲得した。

世界ハーフ選手権の選考レースとなった2016年2月の香川丸亀国際ハーフで5位に入賞。日本人2位となり、この大会で出した1時間01分21秒は日本人学生歴代

3位タイの好記録だった。「今年はおリオオリンピックの年。昨年まではどこまでチャレンジできるかなという程度の気持ちでしたが、今は可能なら1万mで代表を狙いたいという気持ちに変わっています。そのためには、まずは1万mで27分台を出すのが目標です」

オリンピック出場のための参加標準記録は28分00秒。中谷選手のベスト記録は28分17秒56である。

高校時代無名だった選手が世界の舞台で活躍

大学入学後、一気に長距離選手としての才能が開花したのが工藤だ。駅伝の名門、広島県世羅高校出身で、高校時代も陸上部に所属していたが、ずっと補欠のままで全国大会に出場する機会はなく、無名の存在だった。

「大学1年の夏合宿で頑張った結果が出



一定のスプリットを刻んだり、緩急をつけたり。ケガをしないように、自分の身体と対話しながら、練習に打ち込む

て、高校時代に走れなかった悔しさを大学に入ってから晴らしました」

3週間の合宿では1日30kmの走り込みを行い、主力メンバーでも音を上る練習にしっかりと付いていったという。

2014年11月の全日本大学駅伝では1年生でただ1人メンバーに選ばれ、5区を走って区間2位の成績で駒澤大学の4連覇に貢献した。

その2週間後の上尾ハーフでは1時間02分18秒で3位に入り、日本ジュニア歴代3位の好記録。昨年の日本学生ハーフで自己記録を更新して2位となり、今年2月の香川丸亀国際ハーフで中谷に次ぐ3位となり、世界ハーフへの出場を決めたのだ。

最大の目標は三大駅伝 絆を強めて栄冠を勝ち取る

個人種目で好成績を収め、将来は世界へと夢を語る3人だが、当面、最大の目標は

「高校時代は補欠の目線で、出場選手をどうサポートするかを工夫したり、走れない悔しさも味わったので、選手に選ばれない人の気持ちもよくわかる。そういう人も含めて、チーム一丸となって優勝に向かって突き進んでいきます」(工藤)

互いに切磋琢磨しながら、繋がる力でゴールをめざし走り抜く。彼らの全力で走る姿を応援したい。



にしやま ゆうすけ
西山 雄介

経済学部 経済学科 4年
三重県 伊賀白鳳高校出身
2016年2月の「千葉クロスカントリー選手権大会」で優勝。切れのあるスパート力をつけたいと話す



なかたに けいすけ
中谷 圭佑

経済学部 経済学科 4年
兵庫県 西脇工業高校出身
2015年7月、韓国光州で行われた「第28回ユニバーシアード競技大会」の10000mで銅メダルを獲得



くどう なおき
工藤 有生

法学部 政治学科 3年
広島県 世羅高校出身
10000mで28分23秒85。ハーフマラソンでの1時間01分25秒の記録は、チーム内で中谷選手に続き2位の記録

仲間との切磋琢磨で世界に挑む

駒澤大学陸上競技部に所属する3人の選手が今春、世界の舞台で躍動した。学生クロスカントリーの世界選手権に出場したのは西山雄介選手。社会人も含めたハーフマラソンの世界一を決める大会に出場したのは中谷圭佑、工藤有生の2選手。

この経験を武器に、トラック種目や大学三大駅伝、さらにはオリンピックに挑もうとしている。(文中、敬称略)

陸上競技部

西山 雄介
中谷 圭佑
工藤 有生

西山がクロカンで団体銀に貢献 世界ハーフで中谷、工藤が激走

3月12日、イタリア・カッシーノで開催された「第20回世界学生クロスカントリー選手権大会」に出場した西山は10.7kmのコースを34分08秒で走り、8位入賞。1位とは22秒差で、団体銀メダル獲得に貢献した。

3月26日、イギリス・カードیفで行われた「第22回世界ハーフマラソン選手権大会」に出場した工藤は、日本人トップの1時間3分41秒で全体の22位。中谷は1時間4分43秒で全体の35位。

2つの大会に出場した3選手が肌で感じたのは世界の壁の厚さ、高さだった。しかし、

帰国した彼らは、さわやかな表情だった。「現地に行かないと体験できないようなことが多々あり、陸上人生にプラスになった」(西山)。「オリンピックや世界陸上でメダル争いをしてる選手と同じ大会に出場したことを、これからの競技人生のプラスにした」(中谷)。「序盤から先頭集団について感じたのがスピード感の違い。少しでも世界に近づけるように頑張りたい」(工藤)とあくまで前向き。3選手は世界大会での経験を糧に、さらなる高みをめざそうとしている。

大学3年間は2位が最高だったが ついに勝ち取った優勝の喜び

西山は三重県の伊賀白鳳高校出身。母親



GLOBAL KOMAZAWA



キャンパスにしながらグローバル人材を育成する
駒澤大学のプログラムを紹介

KOMSTUDY



クイーンズランド大学
来日プログラム

海外の協定校の一つ、オーストラリアのクイーンズランド大学から学生を招く「来日プログラム(KOMSTUDY)」は国際交流の代表例。同大学の学生は毎年11月下旬から12月中旬までの間、本学に留学し、日本語を学ぶとともに茶道や書道をはじめとした日本文化体験学習に参加する。
本プログラムには、彼らの日常生活をサポートするボランティア学生が毎年多数携わる。日本語会話実習や研修旅行などの各種交流企画への参加はもちろんのこと、他にも学食で食事を楽しんだり、授業後に渋谷へ買い物に出かけたりすることも。同世代の学生同士で異文化交流できる絶好の取り組みとして人気だ。



昨年27回目を迎えた「来日プログラム」

グローバルサロン



海外からの交換留学生と
本学学生が
外国語で交流する
グローバルサロン



10月20日、オーストラリア・グリフィス大学の学生を囲んで



2016年度受け入れ交換留学生

駒澤大学では2016年度、中国、台湾、韓国、アメリカ、オーストラリア、フランスの各協定校から16人の交換留学生を受け入れている。交換留学生と本学学生が外国語で交流する場を作ろうと、昨年度から新たに始まったのが「グローバルサロン」だ。交換留学生を囲み、彼らの母国語でコミュニケーションすることで、互いの文化にも触れ合うことができる。2015年7月から2016年1月までに8回開催され、回を重ねることに参加者も増えている。
気軽に参加できるように申込み不要で入退室も自由としており、2016年度もキャンパス発の国際交流を通じて、グローバルな活躍をめざす学生を支援していく方針だ。

地域グローバル化



地域グローバル化
推進講座
地域貢献を目的に
年2回実施

教育機関として地域に貢献することを目的に、キャンパスがある世田谷区周辺にお住まいの方を対象とした「地域グローバル化推進講座」が2015年7月にスタート。
中学生以上



深沢キャンパスの日本庭園を臨む小ホールにて



英語講座を担当するモエ、リチャード教授

ド教授による英語講座「英会話のコツ教えます」を開催する。

2年目となる2016年度はグローバル・メディア・スタディーズ学部のモエ、リチャード教授による

私費留学生



自分の進む道が見えた駒大での留学生活！
夢は母国で臨床心理学を広めること

交換留学生以外にも、駒澤大学で学ぶ留学生は多い。2015年度の私費外国人留学生は学部・大学院あわせて269人。その一人、中国浙江省出身で文学部心理学科4年の王翠さんの横顔は…。



文学部心理学科4年
おうすい 翠さん
中華人民共和国
浙江省出身

教務部前のアクティブ・ラーニングスペースで学生たちが議論したりゼミ準備をしている姿に刺激を受けていると話す王さん

日本の小説を読み日本に興味

日本への留学のきっかけは？

高校生の頃、川端康成や夏目漱石の小説を読んで日本文学や日本の文化に興味を持ち、上海の大学で日本語と秘書の勉強をしました。卒業後、日本人が社長の務める会社に就職しましたが、生活は安定しているけれど何か物足りない。そのころ東日本大震災があり、あれだけの災害に遭いながらも、皆さんがルールを守って並ぶ様子がテレビや新聞で報道されているのを見て、日本人の冷静さに感心しました。このことがきっかけで、日本へ行ってみようという思いが強くなり、留学を決意しました。

「両親は反対しませんでしたか？」

両親は、せっかく就職できたのになぜ今の生活を捨ててまで日本に行くのかと反対しました。でも結局、父が「自分の人生なのだから親が何を言ってもしょうがない、行きたかったら行きなさい」と言ってくれ、2012

年1月に来日して、東京の日本語学校で受験勉強を始めました。

来日してどうでしたか？

学費は一部を親が出してくれ、生活費はアルバイトでやり繰りしました。何より大変だったのは日本語の勉強。好きだったジブリ映画を繰り返し観て勉強しました。映画に出てくるセリフをマネして録音し、発音の練習をするんです。『千と千尋の神隠し』は4回くらい観ました。

臨床心理学のゼミ

駒澤大学を選んだ理由は？

日本で何を学ぶべきか、とても悩みました。この気持ちを日本語学校の先生に打ち明け、悩みごとを聞いてもらったらフツと楽になった気がして、そのうち自分が相談される側に回れたらいいなと思うようになりました。そんな私を見た先生が、心理カウンセラーという選択肢があることをアドバイスしてくださったんです。

心理学がある大学を調べ、駒澤大学は実験室など施設が充実していて、留学生の授業料減免制度や留学生窓口もあり、支援体制が整っていることに魅力を感じました。キャンパスの雰囲気も落ち着いているところも気に入ったポイントです。試験に受かって入学したのは2013年4月。来日から1年3ヵ月後のことです。

大学ではどんなことを学んでいますか？

現在臨床心理学のゼミに所属しています。1年生のときは慣れない授業とアルバイトとの両立で苦労しましたが、学費減免と奨学金のおかげで、2年生からは両親の仕送りに頼らず学業に専念できています。

今年の目標は卒業論文を完成させることです。大学院進学もめざしています。将来は中国に戻りカウンセラーになりたい。今、中国は経済がすごく発展しているけれど、一方で心を病む人も増えています。私自身この4年間で多くの方に助けられ、私もきっと人のために何かできることがあると思うようになりました。駒澤大学で学んだものを携えて母国で活躍したいです。



学科の動物実験室では白衣を着用する

「スポーツの力」を伝える、広める

共同通信社運動部で記者として20年、ひたすらスポーツを追い続けてきた田井弘幸さんと、公務員ランナー・川内優輝選手の“そっくりさん”で人気上昇中のものまねアスリート芸人・M高史さん。2人が語るスポーツの力とは――。

M 高史
ものまねアスリート芸人

Special
Talk
卒業生対談

田井 弘幸
共同通信社 運動部記者



名誉教授に聞く

いけだ さん
池田 魯参 名誉教授

1941年長野県生まれ。1964年駒澤大学仏教学部禅学科卒業。1969年同大学院博士後期課程満期退学。講師、助教授を経て1983年より仏教学部教授。禅文化歴史博物館館長等歴任。2012年定年退職、同大学名誉教授。2013年より同大学総長。1977年日本印度学仏教学会賞受賞。専門は中国仏教・天台教学思想・道元学。



『正法眼蔵』の真髓に迫ろうと選んだ天台教学

「勉強するなら天台教学を」と
恩師・鎌田教授の言葉

高校、大学の頃は理屈をこねるのが好きな哲学青年で、大学の卒業論文のテーマに選んだのが『正法眼蔵』の「有時」の巻でした。すると論文を読んだ指導教授の増永靈鳳先生からこう言われました。

「この論文を書くのなら大学院でもうちょっと深く勉強しろよ」

それで大学院に入って『正法眼蔵』を研究するつもりでいたら、中国仏教研究の泰斗である鎌田茂雄先生がこうおっしゃるのです。

「大学院で勉強するには今までのような勉強ではだめだ。道元禅師が若いときに学んだ比叡山の学問をやらなければいけない。自分は華嚴教学をやっているの、きみは天台教学をやらないよ」

鎌田先生は駒澤大学を卒業して東大教授になられた方で、当時、私が所属していた弁論部の顧問を務めておられました。これが私が中国の天台教学を研究するようになったきっかけです。

10年がんばればとの励ましで続けた「わからない日々」

天台教学は隋の煬帝のころ、天台智者大師と称する智顛が『妙法蓮華経』をベースにして大成させた仏教学です。智顛が講述した『法華玄義』『法華文句』『摩訶止観』のいわゆる「天台三大部」のうち、まず取り組んだのが修行の理論書である『摩訶止観』です。

「止観」とは静まった心で世界を観察する

という意味で、坐禅を説明する際に「調身、調息、調心」すなわち姿勢と呼吸、心を整えよと、必ず「天台止観」の定義が出てくるほど重要な書です。道元禅師が「只管打坐」を提唱するには、従来の止観の伝統からさらに飛躍する必要があったので、止観の系譜をたどることは大きな意味があります。

しかし、はじめの10年ぐらいいは何もわかりませんでした。何がおもしろいのか、どこに重要な意味があるのか、皆目わからない。鎌田先生は「10年がんばりなさい」と励ましてくださり、敬愛する先生のおっしゃることだからと研究を続けるうち、本当に10年ぐらいいしたらポツポツわかるようになってきました。そして、ひとつわかった。「あれもそうだった、あれもそうだった」と網目のように広がっていく。これがまた、研究の醍醐味でもあるのです。

これと同じで、私たちは日常生活でさまざまなことを経験しますが、それはすべて自分の勉強や成長に繋がっていくんですね。

現在、取り組んでいるのは天台教学をベースにした道元禅師の『正法眼蔵』の研究や、總持寺の御開山磐山禅師が説かれた『伝光録』の研究です。

道元禅師については研究者がたくさんいますが、磐山禅師の研究者は非常に少ないのです。そこで總持寺で、『伝光録』を学び修行する「伝光会攝心」に、4年前から講師の一人として参加しています。一般の方も含め200人近い若い雲水たちと、泊まり込みで朝3時半に起きて僧堂で坐禅を行い、そのあと午前と午後の2回に分けて『伝光録』の講義を行い、これを5日間続けます。今年も6

月に行われ、私も参加します。
総長としてのモットーは
素直で柔らかい心

2013年には総長に就任しました。代々の総長の名誉を傷つけないことがないように、常に襟を正しております。

『妙法蓮華経』の「如来寿量品」というお経の中に「質直意柔軟」という言葉があります。質直とは素直なという意味であり、意柔軟とはしなやかに柔らかく、あらゆるものに水のように行き渡り、あらゆるものを拒まない心をはりまします。

道元禅師も「坐禅の功徳は柔軟心であって、柔軟心が湧いてこないような坐禅はやめたほうがいい」と言っています。どんな状況下でも、どんな人と出会っても柔らかく対応できる心が大事なことだと思います。

ですから私も、「質直意柔軟」をモットーに、建学の理念を正しい形で社会に発信していきたいと、日々工夫しております。



道元禅師の法話を侍者の懐妊が筆記した『正法眼蔵随聞記』は道元自身の姿をいきいきと浮き彫りにした道元の入門書。また『宝慶記』は道元禅師と如浄和尚の問答をまとめたもの。道元研究に欠かせない書に、格調ある訳文と詳しい注解を施した。

記者と芸人
それぞれの道に
進んだきつかけ

—お2人がこの道に進もうと思ったきつかけを教えてください。

田井 子どもの頃から相撲が大好きで、「将来は力士に」と真剣に考えていたのですが、体がそれほど大きくない。諦めていたら、「力士は無理でも新聞記者になったら、相撲担当になれば、相撲の世界と関われる」とある人から教りました。

相撲関係の雑誌などをボロボロになるまで読んでいたおかげか、記憶力は相当鍛えられました。相撲界の古い言い回しやしこ名の難しい字もお手のもの。10歳のときに「麒麟児」という名前を漢字で書きましたし、名勝負の決まり手などもそらんじています。記者になる下地はその頃からできていたのかもしれない。

M 駒澤大学で福祉を専攻し、卒業後に知的障がい者の入所施設の職員になりましたが、そこで自閉症の男性との運命的な出会いがありました。その方は、楽譜は全く読めないのに、耳で聴いただけでその曲をピアノで弾けたのです。

そこで施設内の入所者や職員と一緒にバンドを組んで演奏するうち、ほかの施設や保育園、大学の学園祭などに出張演奏も始めました。するとだんだん自分の目立ちたがり屋の血が騒ぐようになってきました。福祉の仕事しながらプラスアルファでバンドをやっていたのに、そのプラスアルファの部分に生きがいを感じてしまっ、そ



大阪府立体育会館前で、大相撲の本場所が始まると毎日通う

れを職業にしたいと思うようになったんです。両親の心配・反対を押し切って5年前に退職し、芸能の世界に飛び込みました。

駒澤大学での思い出

—駒澤大学に入学した理由は？

M 中学・高校と陸上部に所属していた、どうしても駒澤で陸上をやりたいと入学しました。スポーツ推薦で入学してきた部員が多い中、可能性は低いかもしれないけれど箱根駅伝で走りたいという強い思いから、厳しい練習にも耐えてきたのですが、2年になる前に、大八木監督からマネージャーにならないかと打診されました。最初は「ゴみましたが、マネージャーも重要な仕事です。一念発起して打ち込みました。

監督から言われたのは「気配り、目配り、心配り」。五感のすべてを使って、走り

ノウハウを伝授

—入社してすぐ相撲担当に？

田井 当初8カ月ぐらいは研修を兼ねてあちこちを回りました。その後担当を決めるのですが、相撲の世界は少々閉鎖的な狭い世界なので、希望する記者は少ない。会社としても今どき珍しい人間がいるもんだと、渡りに舟といった感じで割とすんなりと相撲担当になりました。

記者になつてちょうど今年で20年になりますが、いつも肝に銘じているのは、「記事は足で書け」ということ。

キャップになったとき、ちょうど昨年亡くなられた北の湖親方が理事長を務めていた頃で、まずこの人に食い込まなければ何も書けない。でもまだ顔も覚えてもらっていないので、北の湖部屋に日参したことがありました。朝9時前頃ハイヤーで出かけていく北の湖親方を部屋の前で待ち構えるんですが、いつも「ハイどうも」と行ってしまふ。はたして実りがあるのかと思いつながら半年間続けたら、関係者から「最近、理事長が、変な記者が毎日いるけれど、あれはどのだれだっつてお前のことを言ってるぞ。オレが仲介してやるから、死ぬ気で頑張れよ」と言ってくれた。すると程なくして、ちゃんと向き合ってくれるようになった。足を運べば思いが伝わるということを実感しましたね。それから北の湖親方とは、個人的にお話ができるようになり、記者人生の中でも大きな部分を占めるほどいろいろなことを教わりましたよ。柔道でも、あちこちの地方大会に出かけていま

「スポーツの力」を 伝える、広める

だけじゃなく、終わったあとのしぐさなど、選手一人ひとりを見ていくことが大切。こうして3年と4年で主務となり、箱根駅伝では監督が乗る運営管理車と一緒に乗せてもらいました。車ですが1区から10区まで走らせていただきました(笑)。4年ときの最終10区で、同級生の治郎丸健一選手がアンカーとして走っているとき、車をバンバン叩きながら応援していたら、隣にいた監督がマイクを渡してくれました。監督の温情に胸が熱くなって、「治郎丸、最後だ」「行け」と叫んだことを思い出します。

監督から教わった「気配り、目配り、心配り」は、今のまねアスリート芸人としての活動にも大いに活かされていて、感謝しています。

田井 私の場合はそんなに熱いドラマチックな大学生活ではなく、平々凡々たるものでした(笑)。マスコミを志望して選んだのが駒澤大学でした。大阪で生まれ育ち、高校3年の春に東京の大学ってどんな感じだろうと大学を見に来たときに、駒澤大学の印象がすごく良かったことを覚えています。

就職活動ではキャリアセンターの方々に一丸となって後押ししてもらいました。新聞社の採用試験では論文も大きなポイントになりますが、論文の添削指導が得意な方がいて、週3回くらい、その方に出していただいたテーマについて論文を書くこと、といねいにフィードバックしてくれるんです。まるで文通をしていたようなもの(笑)。本当に力になりましたね。

スポーツの魅力とは

—お2人にとってスポーツの魅力とは？それをどのように多くの人に伝え、広げようとお考えですか？

田井 スポーツの醍醐味は試合に臨むまでの過程だと思うんですよ。たとえば陸上の100m走は10秒で終わってしまうとしても、その10秒のためにオリンピックなら4年間の努力がある。相撲も一瞬での勝負がつくことが多いけれど、その一瞬のための稽古や、支える周りの人たちの努力の中で生まれるのが人間ドラマです。この勝負負けの裏にあるものを伝えていきたいですね。

M いろいろなマラソン大会に参加して思うのは、そこで走る人は、走っていると、きはもろろんつらいんですけど、走り終わったときはみなさんともうれしそうに、生き生きとしているということ。体育や部活で、グラウンドを何周走れと人から半ば強制されてやる行為と、自らが意欲的にやる行為とでは大きく違うんです。だから見るスポーツももちろん大事



市民ロードレースでは、ランナーとしても芸人としても大活躍!

ですが、これからの時代は自分がやるスポーツ、参加するスポーツを多くの人が体験することをぜひお勧めしたいです。特に、何かの目標に向かってチャレンジする姿勢は、スポーツから学べる部分が多いので、そのことをたくさんの人に伝えていきたいですね。

自分のルーツは走ること。
福祉とスポーツ、エンターテインメントをコラボさせ
オリジナリティを追求したい

ものまね
アスリート芸人

M 高史

プロフィール
1984年東京生まれ。2007年駒澤大学文学部社会学科卒業。福祉施設職員を経て2011年よりものまねアスリート芸人として活動中。ものまねレパートリーはマラソンの川内優輝選手、B'z、平井堅など。5000m15分40秒、マラソン2時間40分34秒、ハーフマラソン1時間12分19秒の記録を持つ。



研究レポート

複数のメディアによる広告は 消費者行動やブランドイメージに どんな影響を与えるか？

社会人大学院で学ぶうち「研究」のおもしろさを知り、9年間勤めた広告会社を辞めてこの道に。一貫して探究してきたのが「複数メディアによる広告効果」。テレビや新聞、店頭、SNSなど接触媒体によってどんな影響があるのか？

経営学部 中野 香織 准教授

早稲田大学商学部卒業。広告会社に職中に同大学院商学研究科に社会人入学。2003年同大学院商学研究科修了。2008年博士後期課程単位取得退学。駒澤大学専任講師を経て2012年より現職。専門はマーケティング・コミュニケーション。著書に『わかりやすいマーケティング・コミュニケーションと広告』（共著）など。



社会人大学院で学ぶうち 9年間勤めた広告会社から転身

大学卒業後、大手自動車メーカー系列の広告会社に就職し、マーケティングの部署に9年間勤務しました。自動車は1台数百万円もする高額な商品です。当時、テレビでは高額商品のイメージを伝えるCMを流す一方、ディーラーではノボリがはためき、ハッピー姿で車を販売するというふうに大きなギャップがありました。店舗での販売戦略やスタッフ教育に関わるうち、顧客と直接接する売りの現場こそCM以上に大切だと痛感するようになりました。

従業員や店舗の雰囲気や顧客にどういった影響を与えるかに興味を持ち、議論したり、多くの論文を調べてみたりしましたが、なかなか解答が見つからない。もやもやしていた頃、大学の恩師である亀井昭宏先生が大学院の社会人コースの指導教授になると知り受験。働きながら学ぶうち、研究がおもしろくなり、博士後期課程1年のときに会社を辞めて研究の世界に入りました。

メディアへの接触順序で 広告効果に差異はあるか？

当初はドン・シュルツが提唱したIMC（統合型マーケティング・コミュニケーション）などの理論を踏まえ、店舗内の複数の要因が消費者に与える影響についてレビューしていました。現在は複数という視点は引き

継ぎながら、多様なメディアによる広告効果を探っています。

テレビCMや新聞・雑誌広告、Webをはじめ、店頭でのイベントや従業員とのコミュニケーションなど、企業や商品の情報に接するさまざまな接触ポイントがありますが、それぞれが消費者行動にどのような影響を与えるのか、また、接触順によって効果は異なるのか、などを検証しています。

たとえば、以前はテレビCMに、「続きはWebへ」とネットへ誘導する手法が多かったのですが、最近ではSNSで話題になったCMをネットで見、その後で実際にテレビCMを見るという場合もあります。そのような場合、ブランドに対する態度やイメージがどのように異なるか、実験的な手法を用いながら比較研究を行っています。

研究は、単純に現象を追うだけではダメで、広告効果について、より普遍的な法則や理論を導くことが求められます。ただ、マーケティングの研究は社会と密接な関係がありますから、世の中に私の研究の成果がどう使えるか、応用できるかという視点も常に持っています。

大学は、社会に出る前に 学べる最後のチャンス

研究のおもしろさ、魅力は何かと聞かれれば、自分の研究が世の中の役に立っている、もしくは役に立ってそうだという実感が持てること、と答えています。



中野ゼミの様子。
本文で紹介した活動以外にも、東京広告協会主催のプロジェクトへの参加、学生広告論文賞への応募など、学外の活動に力を入れる

研究者は自分が見つけたことを広く世の中に向けて発信していくのが仕事です。それを他の研究者が見て、別の仮説を立ててまた新たな発見・発信をすれば、多くの研究が蓄積され、世の中の役に立ちます。

もうひとつ、私は研究者であると同時に教員でもあるので、いかに学生たちの力を伸ばしていくかが、社会貢献の観点でいうと、もっと大きいかもしれません。

ゼミでは、たとえば航空会社などをお願いして、卒業旅行の企画立案といった課題を出してもらい、学生たちに企画書を作らせて実際にプレゼンテーションをさせています。また、他大学と共同で研究発表会を行うなど、学生たちが外に向けて発信する機会を用意しています。こうした刺激や交流があれば学生たちが大きく力をつけるきっかけには必ずですから。

私がよく学生に言うのは、大学は社会に出る前の最後に教育を受ける場だということ。せっかくのチャンスなのだから上手に活用してほしい。今、ここでしか学べないことを積極的に学んでほしいですね。

研究レポート

メディア制度の形成と変容を 社会や文化も含めた歴史的な文脈で読み解く

インターネットをはじめ通信技術の急速な進展によって私たちのコミュニケーションのありかたが大きく変容している。では、その運用の仕組みやルールは、国際間でどのように定められ社会にどんな影響を与えてきたのだろうか？西岡教授は、メディア産業のそんな大きな流れを見つめている。

グローバル・メディア・スタディーズ学部 西岡 洋子 教授

東京女子大学文理学部卒業。1992年米国ペンシルベニア大学アネンバーグ・コミュニケーション大学院で修士号、2004年慶應義塾大学政策・メディア研究科修了。政策・メディア博士。専門はグローバルなメディア制度の形成と変容、比較制度分析。



グローバルに広がるネットワーク 誰が、どう管理するか？

みなさんはLINEで友人とおしゃべりし、YouTubeで動画を見、ネットで世界のニュースを見聞きするなど、インターネットが空気のように当たり前の存在になっていますね。でもグローバルに広がるネットワークを世界中の誰もが問題なく利用できるようにするために、どんなルールがあって、それを誰が管理しているかを意識したことはありますか？

私はこのようなインターネットや放送、通信といったメディア産業の変容を、「制度」という観点で分析しています。

制度というとちょっとわかりにくいかもしれませんが、法律で定められているルールのほかに慣習なども含まれます。たとえば名刺交換のやり方とか、バレンタインデーにはチョコをあげるとか、みんながお互いにそう思っていること、互いに共有されてい

る予想やコンセンサス、決まり事なども制度の概念に入ります。

そういった約束事や慣習などが国内市場はもとより、グローバルに共有されていく過程について、ゲーム理論を使いながら分析をしています。

腕木通信から インターネットへ

メディアやコミュニケーションには高校生の頃から興味があり、大学の卒論はマスメディア以外のものもメディアとして活用する企業のイメージ戦略の分析でした。当時日本には、メディアやコミュニケーションを専門に学ぶ学部はなく、卒業後ペンシルベニア大学の大学院に留学しました。当時のアメリカでは、全米を高度情報通信ネットワークで結ぶという「情報スーパーハイウェイ構想」が打ち出されていて、日本とは比べものにならないほど、情報通信技術が急速に進展していました。

帰国して、通信会社の研究所で国内外の新しいビジネスに関する調査を行った後、大学に移りまとめたのが『国際電気通信市場における制度形成と変化—腕木通信からインターネット・ガバナンスまで—』という論文です。「腕木通信」というのは、大きな水車のような通信機で、回転する腕木の角度などでメッセージを送る機械式の手旗信号機です。これがナポレオン戦争時代にパリからヴェニスまで繋がり、この

運用体制を引き継いで、ITU（国際電気通信連合）が誕生することになります。ITUがトップダウン型であるのに対し、アメリカ型のヒッピー文化が背景にあるインターネットは、参加がオープンで意思決定の仕組みもボトムアップといった違いがあります。こうした制度の変遷をたどったわけです。

ネット供給の動画サービスを 日本・韓国・中国で比較研究中

現在は、通信と放送の融合の典型例ともいべきOTT-V（Over The Top Video: インターネット上で供給される動画サービス）が日本と韓国、中国でどのような発展をしているかの比較研究を行っています。

たとえば、日本では地上波中心の仕組みができて上がっていて、ネットでの番組提供についてもそれは変わっていないのに対して、韓国は新しい発想のプレイヤーも積極的な動きを見せています。

物事の発達はその国の環境や文化によって違うし、もともとの出発点がどうだったかによっても異なります。プロジェクトは韓国や中国の研究者と共同で行い、現地調査もする予定。今年度中には調査を終えて、結果をまとめたいと思っています。

メディアは、世の中で重要な役割を果たして、社会の仕組みやコミュニケーションの方法を変えていく力を持っています。大きな文脈の中で捉えることにより、将来像も見えてくるはずですよ。



『国際電気通信市場における制度形成と変化』で
テレコム社会科学賞奨励賞ほか受賞

経済学部 ITプロフェッショナルクラス 在原千尋さん 「学生ビジネスプランコンテスト」でアイデア賞

在原千尋さん(商3)が、一般財団法人学生サポートセンター主催の「平成27年度(第13回)学生ビジネスプランコンテスト」でアイデア賞を受賞。プラン名は「見守りパネル」。

経済学部 榎田峻さん 「MOS/ACA世界学生大会2015」決勝戦に出場

榎田峻さん(商1)が、日本全国で延べ47,000人の学生がエントリーした「マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)/ACA世界学生大会2015」で4人の日本代表の一人に選ばれ、2015年8月、アメリカ・ダラスで開催された本戦に出場。「パワーポイント部門」で世界第17位となった。

経営学部 世田谷区内の小学校のサマースクールに企画参加
小学生と大学生が学び合うことで大学と地域社会との繋がりを強化しようと、2015年8月、世田谷区内の小学校のサマースクールに企画参加。当日は経営学部の学生39人がゼミ単位に分かれ、ゲームやグループワークを通じて経営学に触れる4つの講座を受け持った。

経営学部 青木ゼミ 学生食堂で「駒大を、聴こう。 駒大を、食べよう。」を 企画・実施

この企画は禅僧が修行で用いる「精進料理」を、本学が取り組む「100円朝食」の定食メニューとして提供すると同時に、多彩なゲストのトークに耳を傾けるもので、2015年11~12月までの8回にわたり、駒沢キャンパス内の学生食堂で開催した。



経済学部の佐藤波莉さんと 依田夕季さんが懸賞論文で佳作

佐藤波莉さんと依田夕季さん(ともに経済3)が、一般社団法人建設コンサルタンツ協会主催の「平成27年度懸賞論文(学生論文)」で佳作に選ばれた。論題は「大学誘致による地域再生の可能性」。

経済学部 松本ゼミ・長山ゼミ 「世田谷まちなか観光メッセ」 に運営協力

同メッセは、世田谷の魅力を発信する取り組みを行うさまざまな団体が参加し、世田谷区のPRと相互交流を図るイベント。松本ゼミは「せたがや検定スタンプリリー」を、長山ゼミは「下北沢ブース」のPRを担当し、これまで活動に携わってきた地域の活動を発信した。



グローバル・メディア・スタディーズ学部 10周年

2015年4月で10年目の節目を迎えたグローバル・メディア・スタディーズ学部。シンポジウムや公開講演会などの記念事業が1年間にわたり開催された。11月20日に開催された国際シンポジウムでは、「グローバル化の進展とメディアの役割」をテーマに、オックスフォード大学のルチアーノ・フロリディ教授(写真)が基調講演を行い、続くパネルディスカッションで白熱した議論が展開された。



開校130周年記念棟が 国交省の「住宅・建築物省CO₂先導事業」に採択

2018年4月運用開始予定で建設中の「開校130周年記念棟」が、恵まれた環境に位置する特性を生かしたバランスのよい設計計画やICT(情報通信技術)を活用した設備の最適制御などが評価され、国土交通省の平成26年度(第2回)「住宅・建築物省CO₂先導事業」に採択された。

北京大学との 国際学術シンポジウムを開催

北京大学との学術協定締結10年を記念して、2015年7月11日「近世・近代における日中文化交流―思想と文学に即して」と題した国際学術シンポジウムを開催。日中間の知的交流の在り方を再評価する視点を明確に示した議論が展開された。



2015~2016 駒大 NEWS

※学年等は当時のもの

茶道部とKPSの有志学生 山形県米沢市で学習支援のボランティア活動

茶道部とKPS(Komazawa Promote Staff)の有志学生が2015年8月に、米沢市の春日山林泉寺で東日本大震災により福島県から避難している児童生徒や地元の子どもたちを対象に、陶芸教室や茶道体験、宿題やドリルの学習支援を行った。学生が参加したのは「置賜(おきたま)学舎夏休み寺子屋」で、仏教学部の石井清純教授が代表を務める「こども育成支援置賜学舎」が主催する取り組みだ。



ゴルフ部 第17回VIGオープンゴルフ大会にボランティア参加

2016年3月に千葉県レイクウッド総成カントリークラブで開催された日本視覚障害ゴルフアスソシエーション主催「第17回VIGオープンゴルフ大会」で、ゴルフ部の部員6人が視覚障害者ゴルファーのパートナーなどを務めた。

桂文雀師匠 文化庁芸術祭大衆芸能部門で新人賞を受賞

本学落語くらぶOBの桂文雀師匠(法学部政治学科卒)が平成27年度の「第70回文化庁芸術祭」の大衆芸能部門で新人賞を受賞。前年度は三遊亭遊馬師匠(仏教学部禅学科卒)が大賞を受賞しており、落語くらぶOBの2年連続受賞となった。

ボクシング部 田中亮明選手が国際大会で活躍し 平成27年度 優秀選手表彰で MVP

田中亮明選手(商4)は、2015年11月の第85回(全日本ボクシング選手権)、ならびに12月にブラジルのリオデジャネイロで開催された「リオ五輪テスト大会」のフライ級で優勝するなど年間を通して活躍し、「一般社団法人日本ボクシング連盟平成27年度優秀選手表彰(アマチュア)」で MVP に輝いた。



自転車部 榎木祥子選手 二冠達成

榎木祥子選手(歴史4)は、2015年6月の「第31回全日本学生選手権個人ロードレース大会」、8月の「第71回全日本大学対抗選手権自転車競技大会(インカレ)」で優勝し、「二冠達成」を達成。2016年3月にフィリピンで開催された「2016世界大学自転車競技選手権(女子クリテリウム)」では4位入賞。

硬式野球部 今永昇太選手が 横浜 DENA から 1位指名

今永昇太選手(経済4)がドラフト1位で横浜 DENA ベイスターズに入団し、本拠地の開幕戦で先発デビューを果たした。



ダンスサークルKST 「DANCE@LIVE JAPAN FINAL2015」で 連覇達成

ダンスサークルKST(Komazawa Street Tribe)が2015年4月開催のストリートダンスの全国大会「DANCE@LIVE JAPAN FINAL2015」RIZE部門で大学日本一に輝き、大会史上初の2連覇を果たした。

文学部歴史学科 佐々木真教授 日本学術振興会から表彰

同教授は、独立行政法人日本学術振興会の科研費の審査において有意義な審査意見を付し審査の質を高めたとして、「平成27年度科学研究費助成事業(科研費)委員」として表彰された。

空手道部 全国大会で入賞相次ぐ

空手道部は2015年6月の「内閣総理大臣杯 第58回全国空手道選手権大会」で、男子団体が形で優勝、組手で3位となり、女子団体では形・組手ともに優勝に輝いたほか、男子個人形の栗原秀元選手(仏教4)と女子個人組手の佐野まどか選手(国文4)がともに準優勝。11月の「第59回全日本大学空手道選手権大会」の男子団体形、女子団体組手でもともに3位など、各試合で好成績を収めた。

ゴルフ部 日本アマチュアゴルフ選手権大会に出場し活躍

2015年7月に開催された「第100回日本アマチュアゴルフ選手権大会」に関東予選を勝ち抜いたゴルフ部の部員2人が出場。連見篤選手(経済4)は予選初日トップの成績で決勝進出を果たした。



総合教育研究部
坂野井和代准教授らの研究グループが
国内で初めて
夜光雲の観測に成功
坂野井和代准教授と、北海道大学低温科学研究所、名古屋大学太陽地球環境研究所、明治大学、国立極地研究所、情報通信研究機構の研究グループが、2015年6月、北海道内にある観測施設で国内初となる夜光雲の観測に成功した。夜光雲は大気中の高度80~90kmに存在する中間圏界面付近において氷の結晶が太陽光を散乱して青白く光るもの。低緯度での出現は地球温暖化の進行度合いを示す可能性がある現象として注目されている。

経済学部 代田純教授
大阪銀行協会の研究助成特別賞を共同受賞
同教授は「日本銀行による補完当座預金制度と銀行経営」という研究で、広島修道大学商学部の勝田佳裕准教授とともに一般社団法人大阪銀行協会の「平成27年度研究助成特別賞」を共同受賞した。勝田准教授は本学経営学部卒業生。

駒澤大学の就職力

2015年度卒業生の就職戦線では、駒澤大学には前年度より約1500社多い1万3762社の企業から求人があった。学生一人につき、約4.8社。全国の大卒求人倍率は1.73(リクルートワークス調べ)ということから、いかに本学への求人が多いかがわかるだろう。2015年度卒業生の就職決定率は2016年3月末現在で2755人と、就職希望者の実に95.3%にのぼる。こうした駒澤大学の就職力を力強くバックアップしているのが、キャリアセンターだ。

求人企業は1万3762社、求人倍率4倍以上！ 2015年度卒業生の就職決定率は95.3%

多彩な就職支援プログラム

駒澤大学の就職支援における最大の特色が、多彩な就職支援プログラムと一人ひとりの学生に対するきめ細かな指導だ。

3年次の4月に第1回就職ガイダンスがスタート。秋になると毎日のようにさまざまな支援講座が開講される。例年力が入られているのが業界研究講座だ。自分に合った企業を早く見つけてもらうために、さまざまな業界の企業担当者を招いて行う講座で、学生たちの業界・職種・企業研究をサポートする。

3月からは合同企業説明会が毎月実施される。参加企業は約1000社にのぼり、キャンパス内いながら数多くの企業情報に触れることができる機会として毎年参加者が増えている。

公務員・教員試験対策のためには、公務員入門学内講座や教員採用試験対策学内講座を用意。教員試験対策は、従来は基礎講座だけだったが、今年度からは英語・国語・社会の専門講座も開催される。

ほかにも、SPI対策講座やFP技能検定(3級)対策講座、MOS試験対策講座、文章講座、面接対策講座、マナー講座、さらにはリクルートスーツ着こなし&メイクアップ、学内OB・OG訪問会などが目白押し。このように、就職活動の

初期から採用試験最終盤まで、必要な情報を提供する講座は約300にも及ぶ。こうした講座の中から、自分の希望の講座を選び、就職活動に臨むことができる。

インターシッピングの受け入れ企業を拡大中

2016年度卒業生の就職活動スケジュールは、経団連加盟企業の選考開始時期が、前年度より2カ月前倒しになり、6月スタートとなった。昨年同様短期決戦が予想されるだけに、事前の業界研究・仕事研究が欠かせない。

このため、キャリアセンターではインターシッピングにも力を入れ、受け入れ企業や団体の拡大に努めている。昨年度のキャリアセンター主催の夏季インターシッピングでは、70以上の企業・団体に約250人の学生が参加した。

一昨年から1、2年生を対象に、駒澤と青山学院、明治、東洋、亜細亜の5大学と、大正製薬、東急百貨店、日東工器、いちよし証券、ソカモトコーポレーションの5つの企業とが連携したインターシッピング(ICS)も実施している。夏休み期間中に1週間、5社の業務を体験するもので、学生にとって早い時期から就職意識を高める機会になると同時に、他大生との交流によって良い刺激を受けると好評だ。

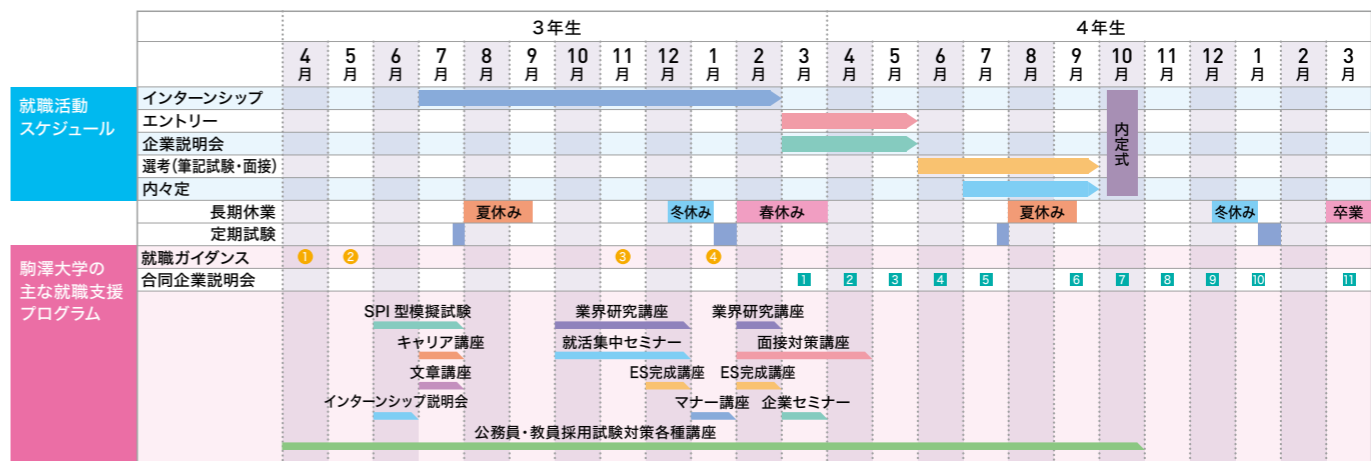
このほか、東京商工会議所が主催する1年生対象のインターシッピングなど、企業の雰囲気を感じたい学生にとって有意義な機会が豊富だ。

学生一人ひとりに真摯に向き合い就職活動をサポート

企業の求人マインドが向上中、いかに学生と企業のベストマッチを実現させるかが重要だ。そこで本学が重視しているのが、個々人の志望や状況に合わせた進路相談。3年次の就職ガイダンスのあと、希望者を対象に2カ月間をかけて進路の方向を一人ずつ面談するのはその一例。その後も、就職活動で迷ったり、なかなか進路が決定しないときなどに、1対1で相談に乗れるよう、キャリアセンター内のスタッフの机の前には常にイスが用意され、じっくり学生の声に耳を傾ける。

卒業間近になっても進路が決まらない学生に対しては、個別に電話をかけて進路相談に乗る一方、最後の最後まで支援しよう、4年生向けの最後の合同企業説明会が今年も3月16日に行われた。「一生のことで、すから悔いなく卒業してほしい。そのためにできる限りのことをするのが私たちの仕事です」と藤野幹之キャリアセンター部長が語るのとおり、手厚い支援プログラムとともに、「親心」に似た徹底サポートが駒澤大学の「就職力」を支えている。

■就職活動スケジュールと駒澤大学の主な就職支援プログラム <2016年度(2017年3月)卒業生対象>



社会に飛び立つ駒大生 ~駒澤大学の就職状況レポート~ 2015年度卒業生

就職状況 2016年3月31日現在

※求職登録及び進路の届出をしていない者は除く

	仏教学部		文学部						経済学部		法学部		経営学部		医療健康科学部	GMS学部	合計		
	禅	仏教	国文	英米文	地理	歴史	社会	心理	経済	商	現代応用経済	法律A	法律B	政治				経営	市場戦略
就職希望者数*	60	76	106	113	105	182	144	68	347	238	127	268	116	187	285	173	44	251	2890
就職決定者数	58	72	102	111	101	168	140	63	331	229	121	246	104	180	275	167	44	243	2755
進学者数 (大学院・大学・留学)	1	5	5	3	6	13	2	10	4	3	0	13	4	2	4	0	11	10	96
各種学校進学者数 (専門学校等)	1	2	4	4	3	3	1	1	4	0	1	3	3	2	4	2	0	0	38
各種試験受験準備	0	1	7	2	3	21	6	5	9	6	7	23	9	10	4	2	1	5	121

主な就職先

学部	就職先
仏教学部	相模鉄道
	東京モノレール
	東日本旅客鉄道(JR東日本)
	ANAエアポートサービス
	ファミリーマート
	ニトリ
	そごう・西武
	くらしの友
	鶴岡市農業協同組合
	警視庁
文学部	足立区役所
	柏市消防局
	大学職員
	本山安居
	心理学科
	全日本空輸
	東日本旅客鉄道(JR東日本)
	大日本住友製薬
	ミクニ
	栗山米菓
経済学部	伊藤園
	クリナップ
	本田技研工業
	富士通
	キヤノンシステムアンドサポート
	みずほフィナンシャルグループ
	横浜銀行
	三井住友銀行
	東京都民銀行
	オリエントコーポレーション
法学部	光市役所
	三島市役所
	石岡市役所
	川口市役所
	相模原市役所
	府中市役所
	北区役所
	足立区役所
	六ヶ所村役所
	多古町役所
経営学部	坂城町役場
	警視庁
	茨城県警察本部
	秋田県警察本部
	東京消防庁
	教員
	経営学科
	一条工務店
	積水ハウス
	全日本空輸
医療健康科学部	学校法人昭和大学
	昭和大学附属病院
	学校法人聖マリアンナ医科大学
	聖マリアンナ医科大学病院
	学校法人東海大学
	東海大学医学部付属病院
	学校法人東京歯科大学
	市川総合病院
	学校法人東京女子医科大学
	学校法人女子医科大学病院
GMS学部	学校法人昭和大
	昭和大大学附属病院
	学校法人聖マリアンナ医科大学
	聖マリアンナ医科大学病院
	学校法人東海大学
	東海大学医学部付属病院
	学校法人東京歯科大学
	市川総合病院
	学校法人東京女子医科大学
	学校法人女子医科大学病院

「駒澤大学のヴィジョン」 いよいよ大学改革推進室が始動！

廣瀬良弘学長が就任してから、まる3年が経ちました。この間の廣瀬当局の仕事は、「改革」の二文字に収斂しゅうげんします。

組織の根本規程は、企業の場合は「定款」ですが、大学のような学校法人では「寄附行為」と言えます。本学では3年前の2013年4月よりこの寄附行為を改め、理事会のダウンサイジングを図り、経営のフットワークを高めました。「改革」のための根本規程の改正です。廣瀬当局は、この新寄附行為体制とともに、まさに「改革」当局として出発しました。

したがって当初からめざしていたのは、小手先だけの部分的な改革ではなく、全学的な根本的改革です。いま社会は、大学に対して明確な教育成果を強く求めており、本学の改革はその要請に応えるためのものであります。

そのような改革は、ただ手当たり次第に試行を重ねて実現できるものではありません。まず長期かつ広範な展望に立った計画を策定し、それを力強い行動力で実行し、「やりつぱなし」にすることなく、粘り強く結果を検証し必要な軌道修正を施しながら、着実な成果を上げ続けることによつて、はじめて達成されます。つまり、計画・実行・成果検証・改善という改革サイクル（PDCAサイクル）を十分に機能

させることが不可欠です。

「改革」の最重要目標は、もちろん教育研究環境の充実にあります。廣瀬当局は、この目標を見据え、上述の改革サイクルを機能させることによつて、きわめてシステマティックに秩序立って改革を行ってきました。

その成果は顕著です。全学の結束と関係者の皆さまのご支援により、財政再建が順調に進む中で、はじめての中長期ヴィジョンが「施策体系」として完成し、キャンパス再整備が記念棟建設着工というかたちで動き始め、法科大学院・苫小牧駒澤大学の改善成果が数字に現れるようになりました。幸い、今年の本学志願者数も4万人を超え、増加率・増加人数とも首都圏主要大学のトップクラスとなっています。

そして、今後の改革の要となる部署として、いよいよ「大学改革推進室」が、この4月より稼働し始めました。名前のとおりこれは「改革推進」を業務とする新部署です。改革の主体はあくまでも全学の教職員であり、それを強力にバックアップするのがこの新部署です。

小職（教育研究担当副学長）が室長を務め、全学の結束力のベースとなる学内の情報共有を図りつつ、

副学長（教育研究担当）
大学改革推進室長
桑田禮彰

学長のリーダーシップのもと、当局の改革方針策定を補佐しながら、各部署の具体的改革を支援するというかたちで、全学的な改革サイクルを活性化し、本格的な改革を展開していきます。

「改革推進」のために最も必要なのは、所属部署の枠を超えた「全学的視座」です。推進室は、自らまずこの視座の確保に努め、それを全学に向けて広く発信してまいります。



開校130周年記念棟(2017年12月完成予定)イメージ図



「行学一如」の精神で 未来に向けて「今」を全力で

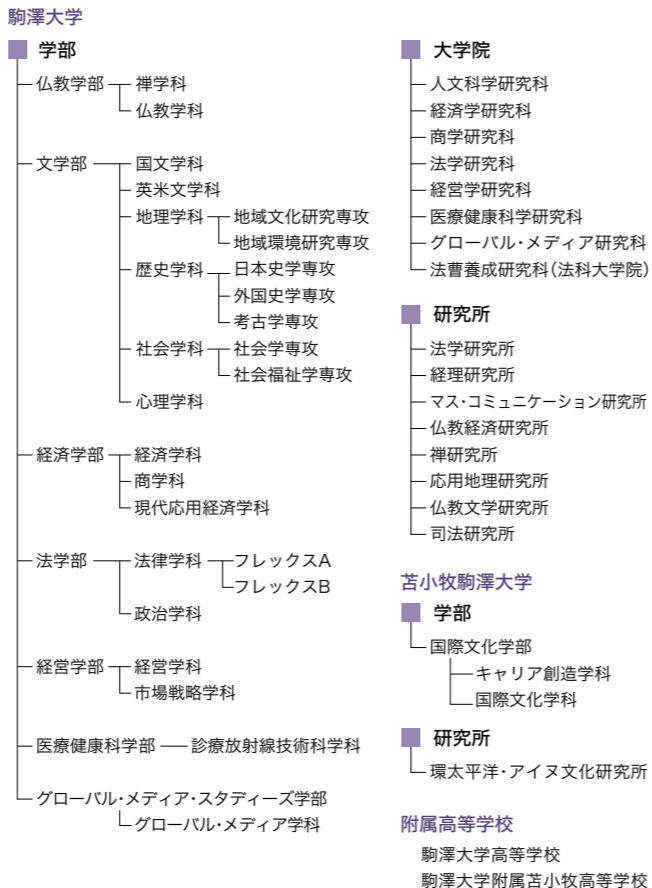
学長 **廣瀬良弘**

駒澤大学は、仏教の教えと禅の精神を礎としています。その建学の理念が「行学一如」です。学問研究に励むと同時に行動すること、実践しながらアクティブに学ぶこと、すなわち「学」を自分の血肉とするためには「行」こそが大切だとする考え方を言います。

アクティブな学とは、現実・今・プロセスを重視する学ということ。高みに上りつめた姿だけが尊いではなく、果てなき高みをめざして目の前の一歩一歩を着実に踏みしめていく努力もすばらしいこととして「行学一如」は称えます。未来に向けて、「生懸命にチャレンジする日々」「今」の取り組みこそ尊いのです。さて、昨年5月からは「開校130周年記念棟」の工事が始まり、延床面積2万3800㎡、本部棟のある北側は4階建ての低層部で屋上がルーフテラスとなり、駒沢公園に面した南側は9階建ての高層部になり、1階に広々とした学生食堂、2〜9階に大小の講義室と多目的ホールが入る構想で、2017年12月に完成予定です。完成の暁には、明るくさわやかなキャンパスが実現することでしょう。

すでに確固とした学校法人の将来ヴィジョンも策定しました。学生一人ひとりの質の向上とともに大学全体の教育の質を高め、禅の特色を生かし、日本に、世界に発信し、貢献する大学にしていきたいと考えています。

学校法人駒澤大学教育機構



沿革

- 1592年 文禄元年 江戸駿河台吉祥寺境内に「学林」設立
駒澤大学の前身である「学林」は、曹洞宗が禅の実践と仏教の研究、そして漢学の振興を目的として設立
- 1657年 明暦3年 吉祥寺駒込に移転、中国の名僧・陳道栄が「旃檀林」と命名
- 1882年 明治15年 麻布北日ヶ窪に校舎を新築して移転、10月15日に校名を「曹洞宗大学林専門学本校」とする
曹洞宗大学林の学生たち
- 1905年 明治38年 校名を「曹洞宗大学」と改称
- 1913年 大正2年 大学を現在の駒沢(旧東京府荏原郡駒澤村)の地に移転
駒沢移転当時の大講堂
- 1925年 大正14年 大学令による大学として認可、「駒澤大学」と改称
- 1949年 昭和24年 学制改革により新制大学に移行、仏教学部・文学部・商経学部の3学部で再スタート
- 1951年 昭和26年 学校法人令による学校法人駒澤大学に組織変更
- 1964年 昭和39年 法学部を開設
- 1965年 昭和40年 商経学部を経済学部に変更
- 1969年 昭和44年 経営学部を開設
- 1982年 昭和57年 開校100周年
- 1992年 平成4年 「学林」設立以来400年を迎える
- 2003年 平成15年 医療健康科学部を開設
- 2004年 平成16年 大学院法曹養成研究科(法科大学院)を開設
- 2006年 平成18年 グローバル・メディア・スタディーズ学部を開設
- 2012年 平成24年 開校130周年
- 2013年 平成25年 駒沢移転100周年
- 2015年 平成27年 開校130周年記念棟建設始まる



〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1
TEL.(03)3418-9828 FAX.(03)3418-9017
<https://www.komazawa-u.ac.jp/>

K O M A Z A W A
U N I V E R S I T Y

Link

Link(リンク)には「人と人の繋がり」「伝統を繋げる」「地域と繋がる」という意味が込められています。